

# 國學院大學學術情報リポジトリ

## 〔学生懸賞論文発表〕 選評

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: [國學院雑誌編集委員会] メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://k-rain.repo.nii.ac.jp/records/410">https://k-rain.repo.nii.ac.jp/records/410</a>

# 学生懸賞論文発表

第一部門（本学文学部・神道文化学部学生、別科在籍者）

佳作Ⅱ本誌八月号掲載Ⅱ

田子 晃矢（文学部史学科三年）

清代中期における書院の「官学化」と科道官

鈴木健多郎（神道文化学部神道文化学科三年）

『仏度伝』に見る内山真龍の神観と仏教観

第二部門（本学大学院文学研究科・専攻科在籍者）

佳作

山口 祐樹（文学研究科博士課程後期二年）

古代伊勢神宮祭祀と大神宮司

（所属・学年は、応募当時）

## 選評

山口 祐樹（大学院文学研究科博士課程後期二年Ⅱ平成二十九年年度）

古代伊勢神宮祭祀と大神宮司

山口祐樹氏の論考の優れた点は、大神宮司の職掌解明上、伊勢神宮の儀式次第の解釈に基づいたアプローチの有用性を示したところにある。同氏が整理しているように、大神宮司に関連する先行研究の多くが、同職の「神宮の雑務管掌」という職掌の一面に注目し、禰宜を筆頭とする在地神職との関係性の薄さを浮き彫りにしている。しかし、対象論文で注目する儀式次第には、同職と禰宜以下が共同でことに当たる例が記されている。こうした例に着目して、大神宮司と在地神職との関係を明らかにしようとした点は高く評価できる。

対象論考の具体的な検証のテーマは二通りに分けられよう。一つ目は大神宮司自体の儀式への関わり方、今一つは特定の儀式に大神宮司の関わらない理由である。特色あるのは後者である。ここでは齋戒に着目し、大神宮司と比較した際の禰宜の厳格さを指摘している。この指摘こそ、組織ないし世俗の職務か

らの観点からは導き出せない大神宮司の特色であり、同時に当該論考の顕著な特色でもあろう。なお、史料性、とりわけ古代に関する記載に難のある『太神宮諸雜事記』を採用した点については、<sup>4</sup>後論を展開させる際に二層の説明が必要だと考える。

前者の検証の対象となつている神嘗・月次祭の奉幣や式年遷宮の遷壺は、いずれも朝廷が主導する儀式である。それらでも禰宜などの在地神職の関与する点に留意したのは良いところだが、大神宮司が統括するという指摘についてはなお踏み込む余地がないだろうか。提起した課題を解き明かす上では、実際上「大神宮司が禰宜にいかなる権限を行使できたか」という問題も、儀式次第が詳細であるので論証できる可能性があるだろう。

なお、大神宮司と禰宜等が相互補充の関係にあるという点を結論では強調する。相互補充であることを前提に先行研究は再検証でき、さらに新たな論点も提示できるのではないだろうか。対象論考でここまで踏み込んで良かったと考えるが、今後の研究でということであるならば、それに期待したい。

平成三十年年度 國學院雜誌學生懸賞論文募集

一、応募資格…第一部門（本学文学部・神道文化学部生・別科在籍者）

第二部門（大学院文学研究科・専攻科在籍者）

一、枚数…四〇〇字詰四〇枚〜五〇枚以内

一、テーマ…題目は問わない。

但し、未発表学術論文に限る

（卒業論文も可。ただし規程の枚数に収めること。）

一、締切日…平成三十一年三月末日（当日消印有効）

一、入選…賞状ならびに副賞（五万円）

佳作…賞状ならびに副賞（三万円）

一、発表…入選論文およびすぐれた佳作論文は本誌に

掲載予定

一、選考…國學院雜誌編集委員会

一、投稿先…國學院大學文学部資料室

詳しくは本誌表紙裏面を参照